

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

		学校整理番号	23
		学 校 名	青森県立野辺地高等学校
		全日制 の 課程	校舎
(1) 学校教育目標	(1) 心身ともに健全でたくましく、もっと知りたいという好奇心を持ち、将来の目標に向かって積極的に学び続ける生徒を育成する。 (2) 社会を構成する一員としての協働性やコミュニケーション力を養い、他者への思いやりを忘れず、社会の秩序を守り、自己の責任を果たそうとする生徒を育成する。 (3) 課題解決に向けた探究力を身に付け、郷土に誇りを持ち、主体的に未来を切り拓く、地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
(2) 現状と課題	地元中学校の学力上位の生徒は市部の高校や私立高校に進学する。さらに周辺地域中学校の生徒数が年々減少しており、定員に満たない状況が続いている。本校生徒は町主催の行事やボランティア活動に積極的に参加したり、地元議員らを招き、地域活性化をテーマにした「総合的な探究の時間」成果発表会を開催するなど、地域との関係は良好である。相手のことを考えた言動ができること、多様な学力の生徒がいる中で基礎学力を定着させること、生徒一人一人が希望する進路を実現することが課題である。		
(3) 重点目標	1	学習指導・研修の充実→「師弟同行」	
	2	生徒指導・教育相談の充実→「掃除と挨拶、5分前」	
	3	キャリア教育・健康教育の充実→「22世紀まで生き抜く力」	
	4	働き方改革の推進と非遵行為の根絶→「魅力的な教職員」	
	5	地域・保護者・教職員の総力による教育活動の展開	
(4) 結果の公表	保護者及び職員による学校評価アンケートは学校ＨＰで公開している。		
		学校関係者評価には学校評議員会をあてている。 なお学校評議員5名の構成は以下のとおりである。 教育関係者から1名 地域関係機関から2名 本校同窓会から1名 本校ＰＴＡから1名	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導・研修の充実	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善。②「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点からの授業実践。③研修によるスキルを高めるための自己啓発。	・各教科でグループ学習や探究活動を取り入れ、「何をどのように学ぶか」を意識した授業が多く展開された。 ・ICTやコミュニティースクールに関する校内研修を実施し、教職員の指導力・資質の向上に努めた。	B	・2年生からの類型をⅠ・Ⅱ型ではなく、「就職コース」「進学・公務員コース」等、分りやすくすることも検討した方が良いのではないかと。 ・高校の教育課程を分りやすくすパンフレットに載せる等の工夫が必要。	・今後も授業アンケートを活用しながら、生徒の実態を把握し、ICTを活用した授業を実践していく。 ・教育課程や教育内容を外部へ多く知ってもらうことを意識する。 ・職員の研修参加をより推奨していく。
2	生徒指導・教育相談の充実	①家庭との信頼関係を基本に、いじめ、問題行動及び不登校の未然防止・早期発見・早期対応。②積極的に清掃活動、春祭・挨拶を大切に、5分前行動のできる生徒の育成。	・面談やいじめアンケートを実施することで、家庭とも連携しながら、早期発見・早期対応が実践できた。 ・挨拶、清掃、5分前行動、正しい服装を奨励し、主体的に実践できるように指導した。	B	・容儀指導を現代風にするという意見が保護者からあったが、最低限の容儀や言葉遣いなどの指導を継続して欲しい。	・校則についても、生徒が参画した形で、方向を見直し、時代に沿ったものに検討していく。 ・生徒が安全に、安心に学校生活を送れる教育環境を今後も継続できるように、生徒会活動と連携して指導していく。
3	キャリア教育・健康教育の充実	①地域の協力を得ながら、社会的・職業的自立を促し、生徒一人一人の進路志望を実現。②生命を慈しみ、他者を思いやる心を育成と、健全な生活を営む能力と態度を育成。	・各学年でジョブカフェ、インターシップを活用して、進路に対する意識付けの機会とすることができた。 ・SOSの出し方講習や保健だよりによって各心との体の健康意識を向上させてより努めた。	B	・進路指導部が作成したパンフレットは一目で野辺地高校でどのような進路指導が行われているかが分り、とても良い。多くの人に知ってほしい内容である。	・インターシップや総合的な探究の時間を活用し、生徒が自らを成長させ、進路切り開いていけるように支援していく。 ・心や身体の健康面で課題を抱える生徒に対して、今後も面談を実施していく。
4	働き方改革の推進と非違行為の根絶	①心理的安全性を確保し、教育成果を最大限に発揮できる環境づくり。②業務内容とワークライフバランスを見直し。③教育公務員としての使命と責任、そして誇りを常に意識した法令遵守を徹底。	・イクボス宣言や休暇取得目標日数を提示し、休暇を取得しやすい環境づくりに努めた。また、会議等のペーパーレス化を進め業務改善を行った。 ・朝会や職員用掲示板において法令遵守や規範意識について周知した。	B	・特定の教員に負担がかからないように人員配置や改革を含め、働き方改革を推進して欲しい。	・ICTを活用した業務の見直しにより仕事量の軽減を行った上で、考査日の午後や長期休業等には積極的に年休取得を奨励することによりフレッシュを図る。 ・電話の取り次ぎ時間を見直し、8:00～17:30とすることで、業務軽減を図る。
5	地域・保護者・教職員の総力による教育活動の展開	①地域・保護者への積極的な情報発信。②地域と連携した教育活動の整理と推進。	・ホームページでの学校の様子を35回更新し、情報発信に努めた。 ・探究活動発表会に町の有識者を招いたり、コミュニティースクールを指すための地域の方を含めた研修会を実施し、地域との連携を推進した。	B	・中学校での発表会等を計画していただくことが、中学校との連携という観点からとても良い活動と思う。 ・ボランティアの雪かきなど、野辺地高校でも実施できないかと。	・次年度より、学校運営協議会を立ち上げ、より一層地域と連携したコミュニティースクールとして活動を強化する。 ・学校運営協議会を適応した外部人材活用により「総合的な探究の時間」の充実を図る。

(11) 総括	少人数教育を生かし、「何をどのように学ぶか」の視点から、生徒の学力向上と意識の高揚を図ることに取り組んできた。3学年では成果発表会を実施し、地域活性化に向けた生徒のプレゼンテーションを地域の方々にも披露することができた。文化祭などの学校行事を通して、生徒一人ひとりが主役となれる教育活動を実施した。教育課程及び校内規定集の見直しや、学校運営協議会への移行へ向けた様々な新たな取り組みを実施した。
---------	---